

明るい選挙

特集

18歳選挙権10年

高校生の思い

大学4年間のサポーター活動を振り返って

若者の啓発活動参加のすすめ

大学生と春日市の連携による主権者意識醸成の取り組み

諸外国における選挙権年齢と被選挙権年齢

18歳成人改革

山下 さくら(枕崎市役所)

小松 菊(天津市選挙啓発サポーター)

木村 聡汰(慶進高校)

門川 颯汰(長崎県明るい選挙推進サポーター)

古村 聖(関西学院大学)

藤村 まこと(福岡女学院大学)

田中 嘉彦(白鷗大学)

南部 義典(国民投票総研)

4

6

7

8

10

12



コラム

佐々木 毅(明るい選挙推進協会) 14

明推協リレーコラム

佐藤 実(宮城県明るい選挙推進協議会) ... 15

コラム 主権者教育アドバイザー

橋本 康弘(福井大学) 16

短信 17



ご当地めいすいくん

明るい選挙のイメージキャラクター「選挙のめいすいくん」には、地域の特色を生かして活動するご当地めいすいくんがいます。どんどん増えていますので、ニューフェイスを紹介します。



富士山の恵めいすいくん
(静岡県)①



三井の晩鐘めいすいくん
(滋賀県大津市)②



大津祭めいすいくん
(大津市)③



大津絵めいすいくん
(大津市)④



モノレールめいすいくん
(北九州市)⑤



門司港めいすいくん
(北九州市門司区)



小倉城めいすいくん
(北九州市小倉北区)



平尾台めいすいくん
(北九州市小倉南区)



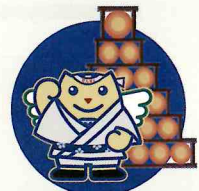
若戸大橋めいすいくん
(北九州市若松区)



東田高炉めいすいくん
(北九州市八幡東区)



吉祥寺藤まつりめいすいくん
(北九州市八幡西区)



戸畑祇園めいすいくん
(北九州市戸畑区)



うみねこめいすいくん
(岩手県宮古市)⑥



浄土ヶ浜エターナルグリーン
めいすいくん(宮古市)⑦



宮古の毛ガニめいすいくん
(宮古市)⑧



宮古の鮭めいすいくん
(宮古市)⑨



いくらをかけた
めいすいくん(宮古市)⑩



瓶ドンめいすいくん
(宮古市)⑪



長沢川桜づつみめいすいくん
(宮古市)⑫



鮎ヶ崎灯台めいすいくん
(宮古市)⑬



三陸鉄道めいすいくん
(宮古市)⑭



大綱さくなめいすいくん
(横浜市港北区)⑮



新横浜ラーメンめいすいくん
(横浜市港北区)⑯



綱島温泉めいすいくん
(横浜市港北区)⑰

プロフィール

①日本一の標高を誇る富士山と、湧き出る雪解け水をたっぷり吸収したお茶の葉をまとっためいすいくん。投票日までの間、所々で開かれるお茶会を見守ります。若者選挙パートナーが作成。

②三井寺の鐘にまつわる伝承をモチーフにしためいすいくんで、目を閉じた姿と蛇がチャームポイントです。三井の晩鐘は弁慶の引きずり鐘を模したもので僧である弁慶をイメージした結袈裟を着ています。

③曳山の装飾をモチーフにしたマントと手に持ったちまきが印象的なめいすいくんです。着物の赤い丸模様は曳山の車輪をイメージしています。

④一目で大津絵と分かるようにめいすいくんの肌の色を赤色にしました。大津絵の原作になるべく近づけるようにデザインされています。②

③④は大津市選挙啓発サポーターの高校生が作成。

⑤北九州市区のめいすいくんは、大学生が作成。

⑥宮古市の新しい遊覧船「うみねこ丸」をイメージしためいすいくんです。ウミネコは宮古市の鳥に指定されており、遊覧船ではうみねこパンを使った餌付け体験が人気です！⑦宮古市の地域色(シンボルカラー)の浄土ヶ浜エターナルグリーンをイメージしためいすいくんです。頭の輪は、それぞれ「森川海」を表現しています。⑧宮古の冬の味覚「毛ガニ」をイメージしためいすいくんです。毛ガニはタラバガニ、ズワイガニと並ぶ「三大蟹」のひとつで、宮古の毛ガニは小ぶりですが身が引き締まって蟹みそが濃厚！宮古毛ガニまつりで会えるかも、！⑨宮古市の魚に指定されている鮭をイメージしためいすいくんです。宮古市には鮭にちなんだイベントや商品がたくさんあります。宮古市のキャラクター「サーモンくん・みやこちゃん」は双子の鮭の兄妹です！⑩三陸「宮古」の新鮮なハラコ(いくら)をイメージしたバックをかけためいすいくんです。いくらを醤油漬けて家庭の味が出ますよね！⑪宮古市の新

参院選公示日直前の7月2日に発売された雑誌『mono モノ・マガジン』の7月16日号(963号)の特集「ご当地monoナンバーワン!」で、ご当地めいすいくんが“大々的に”紹介されました。

しい名物「瓶ドン」をイメージしためいすいくんです。「瓶ドン」は、獲れたてのウニを牛乳瓶に詰めて保存する岩手県沿岸の独特のスタイルからヒントを得て、考案されました。⑫宮古市の桜の名所、長沢川沿いに咲いている桜をイメージしためいすいくんです。長沢川桜づつみには、ソメイヨシノ219本、オオヤマザクラ35本、八重桜36本、ヤマザクラ4本、合計294本の桜が植えられています。⑬東経142度04分21秒の『本州最東端の地』重茂半島の鮎ヶ崎灯台をイメージしためいすいくんです。高さが33.72m、日本一大きなめいすいくんです！⑭三陸鉄道の車両をイメージしためいすいくんです。駅員さんの帽子も被って、選挙と三陸鉄道をPRします！宮古市のめいすいくんは市内の高校生が作成。⑮Yocco18港北区キャラクター「大綱さくな」が、ご当地めいすいくんバージョンとしてデビューしました。大倉山記念館(石造り神殿風)の色をベースにした白のワンピースとネクタイを身に着け、公正できれいな選挙を呼びかけています。明るい性格のアイドル(横浜アリーナ)で、運動(日産スタジアム)が得意なスポーツ少女が、港北区の「明るい」選挙の推進「運動」を盛り上げます。⑯全国からたくさんの方がラーメンを食べに来る新横浜。選挙でもたくさんの方が投票に来ることを願い、めいすいくんはたくさんの具がトッピングされたラーメンを食べています。これからも投票率がぐんとアップするためのPRを、スープのようにこってり、麺のように細く長く続けていきます。⑰かつて東京の奥座敷として栄えた綱島温泉をモチーフにしためいすいくんです。明るい選挙の実現にける情熱は、温泉の熱量にも負けていません。「銭湯もいいけど、選挙もね」なんて、湯ーモラスなフレーズを思い浮かべながら湯船にかかるひと時は、めいすいくんにとって至福の時間です。

高校生の思い

「高校生委員としての活動を通じて」

山下 さくら 枕崎市役所職員(鹿児島県枕崎市)

私は、高校3年生の時に枕崎市明るい選挙推進協議会の高校生委員として活動をしていました。また、その年(2024年)の7月に行われた県知事選挙では有権者として初めての投票を行えるということもあり、当時は今まで関わることのなかった選挙に対して、不安と緊張でいっぱいだったのを今でも覚えています。

私が高校生委員になったきっかけは、当時私が所属していた生徒会活動に枕崎市選挙管理委員会事務局の方が声をかけてくださったことから始まりました。高校生委員には、地元の高校生5人が任命され、主な活動としては、街中での様々な啓発活動や選管委員との座談会、そして市議会の傍聴など高校生が選挙に触れ合いながら取り組むことを中心に行われました。その中でも、市議会を傍聴するのは人生で初めての経験で、議会の難しい内容や緊迫感のある空気



に感銘を受けました。高校生委員として活動した1年間で、選挙の大切さや社会の一員になれることの喜びを実感することができました。

私は、これからも高校生委員となった子たちが、選挙に対して興味や関心を持ち、有権者となったときに正しい知識で積極的に投票に参加してくれることを強く願っています。そして、私も社会人としてよりよい社会を作るために政治への関心を深め、投票に積極的に参加し、投票することの大切さをより多くの方々に知ってもらえるように努めていきたいと思います。

「選挙啓発活動に参加して」

小松 菊 大津市選挙啓発サポーター(滋賀県大津市)、滋賀短期大学附属高等学校2年

令和4年より私たちの先輩方が、選挙の際に啓発ポスター、啓発動画、投票所の飾りつけなど、特に投票率の低い若者に向けた選挙啓発を、市の選挙管理委員会のみなさんと協力して行ってきました。

私たちは今年の春、ランチ大津京という定期的にマルシェなどが行われるショッピング施設で私たちと同じく、大津市の選挙啓発サポーターである滋賀短期大学、比叡山高校と連携して選挙啓発活動を行いました。

テント1つ分のブースには模擬選挙を行うための長机と投票箱、参加賞の風船、そして制服

を着た私たち学生と選挙のイメージキャラクターのめいすいくんの着ぐるみがテントの周りを歩いており、かなり目立っていたと思います。

この活動で行った主な企画は子どもを対象とした模擬選挙です。昨年、児童クラブでの出前講座で行った模擬選挙がとても盛り上がったこともあり、イベントに向けての計画を立てる話し合いでも、「模擬選挙をしよう!」という案はかなり早い段階から挙げられていました。

投票対象は、比叡山高校と新しく創り上げた滋賀・大津のご当地めいすいくんでした(2頁参照)。投票用紙に並べて印刷された4つのめいすいくんの中から一番良いと思ったものに丸

印を記入するというもので、小さな子どもでも簡単に投票ができたため、たくさんの人が参加してくれました。どれに投票しようか必死に悩んでいる子、ワクワクしながら投票用紙を投票箱に入れる子、開票作業の様子を真剣に見ている子、どの子も初めての選挙をととても楽しんでいました。子どもの頃、親の選挙に同行したことがある人ほど投票率が高いと言われているの

で、このイベントをきっかけに親の選挙に同行する子が増えてくれると嬉しいです。

今回の活動に参加して一番感じたことは、下の世代に選挙に対して明るいイメージを持ってもらえたことへの喜びと達成感です。この気持ちを忘れずにこれからも積極的に選挙啓発活動に参加していきたいです。

「若者の投票率について思うこと」

木村 聡汰 慶進高等学校3年(山口県宇部市)

私の家族は、政治に対して常に関心が高く、特別な事情がない限り、毎回投票を行ってきました。そういう環境の中で育ったせいか、私も、子どもの頃からテレビや新聞などのメディアを通じて、政治に関する興味を抱いてきました。その中で、私が特に喫緊の課題だと考える問題が、投票率の低下の問題です。

最近の選挙報道では、「史上最低の投票率を記録した」とのニュースが目立つように感じます。そして、その投票率の低下は、若年層の投票率の低さが要因の一つとして挙げられています。例えば、昨年の衆院選では、全年代の投票率は53.85%であり、国民の約半数は選挙権を行使しなかったことになるのですが、20歳代に限ってみれば、投票率は34.62%と、若者の約3分の1しか投票しませんでした。

どうして若者は選挙に行かないのかについて、私はずっと疑問を抱いてきました。若者が選挙に行かないことで起こる悪影響は深刻です。若者より高齢者の方がたくさん選挙の投票に行くということであれば、立候補者はより多くの票を獲得するために、若者よりも高齢者にとって有利な政策を実行することが多くなると考えられます。それによって最も損をするの

は、若者自身ということになるはずです。

現在、政府や各地の選挙管理委員会でも、若者の投票率の低さを深刻な問題ととらえており、さまざまな施策が採られています。例えば、投票権を持つことになる18歳の高校生を主人公としたオリジナルの選挙CMを作成したり、ショッピングモールや大学構内などの若者が集まりやすい場所に期日前投票所を設置して、私用のついでに投票を行うことができる環境を作ったりしています。今回私も生徒会のメンバーと一緒に若者に向けた選挙啓発動画を作成しました。すでに、SNS上で少なからず反響がありますが、この動画を見て、実際どれだけの投票率に結び付くかわかりません。

ただ、私が選挙に行かない若者に伝えたいことは、投票に行かず、ただ政治を批判するだけでは、何も変わらないということです。本当に我々が住む社会をより良い方向に変えたいと思うのであれば、投票所に足を運んで、投票を行い、自分の考えをあらわすことが必要です。若者が政治に対して関心を持ち、その上で、投票することでより良い未来が実現できるという実感、若者自身が持つことのできる社会を実現しなければならないと、私は考えています。

